

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年1月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676100193
法人名	医療法人 松城会
事業所名	グループホーム「ゆうゆう」
所在地	鹿児島県霧島市隼人町姫城一丁目276番地 (電話) 0995-44-618
自己評価作成日	平成23年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=4676100193&SVC=0001096&OC=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成23年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「ゆうゆう」は、日当山温泉郷の閑静な住宅街の一角にあり、温泉が楽しめる。医療法人(隼人温泉病院)が運営し、入居者の日常の健康管理や医師・看護師による往診、救急時対応などが充実している。日々の出来事を忘れ、明日への希望が持たないで生活を送っている入居者が多く、入居者にとってはその日その時が真剣勝負であり、職員はその日一日を自分らしく精一杯生きられるように全精力を傾けて支援している。また、入居者の意欲や残存(潜在)能力を奪ったり、自主性(主体性)を阻害する過剰介護にならないように配慮しながら取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は日当山温泉郷の住宅街の中にあり、事業所内にも温泉が引かれ日常的に温泉を楽しむことができるようになっている。隣接敷地内には母体医療機関である。隼人温泉病院の他に老人保健施設や訪問看護ステーションなどの事業所もあり、日々、連携し合い、協力体制を構築している。

職員は常に理念を認識するとともに理念についての話し合いも随時行なわれ、地域の中で健やかに暮らせるよう、真剣に取り組み、対応されている。

職員間の連携も密に取れており、日常的な会話の中から、職員間の思いや悩みを出し合い、また、入居者への接し方について話し合うなど日々の関わりの中で職員と入居者がともに関係を築き合うことを大切にしている。

管理者や職員は地域との関わりを密にしていきたいと考えており、毎月発行している『ゆうゆう便り』を回覧版で回覧できるようにして、地域住民に広く事業所の活動をアピールしたり、近隣事業所や行政職員で結成している『竹ちゃん一座』に所属し、地域はもちろん、県内を中心に認知症や介護についての寸劇を熱演し紹介している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	管理者は、理念に基づいた運営を実践するために、人材育成や職員の和(協調)を心がけながら、利用者の生活を支援する意識と対応について、仕事と業務を使い分けた取り組みを行なっている。職員は、入居者が入居に至った背景や要因、諸事情等に配慮しながら、“その人らしさ”とは何か?を最優先に考えながら対応している。	理念は「主体性の尊重、地域で健やかに暮らせる」等の言葉を含み、玄関や食堂、リビングなどの共有スペースに掲示して日常的に入居者との関わりを意識し、振り返ることができるようになっている。また、理念とは別に、入居者との絆を大切にするという主旨の年間の標語も作成して『年間行事計画』に記載している	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員会をきっかけに自治会へ入会し、回覧板による機関紙の配布や自治会の行事などに参加している。しかし、入居者のほとんどが姫城地区外のためか?地域への関心が薄いと感じる。地域だけでなく近隣に暮らす高齢者の生活にも関るのが理想的であるが、入居者は自分の生活が精一杯で、職員も業務に追われて地域に目を向ける余裕がない現状もある。	日常的に散歩や買い物に出かけたり、地域の廃品回収などにも参加している。運動会など地域の行事には入居者の状況に応じて個別あるいは少人数で出かけるなど、地域とふれあう機会を作っている。また、毎月発行している『ゆうゆう便り』を回覧版で回すことで地域の方々に事業所の取り組みを細かく紹介している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	入居者は自立した生活が送れないため、24時間目が離せない。職員も限られた人員で健康・安全管理や日常生活全般の介護に追われ、近隣にお住まいの高齢者にまで気が回らないのが現状がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、多岐にわたる広い視野で議題を設け、取り組みについての検証・評価、議論をしながらサービスの質の向上に努めている。ただし、地域の各種代表者の立場でなく、個人レベルの主観や発言も多く、根本的な論議に至らない場合もある。	会議には、入居者や家族代表、自治会長や民生委員、行政職員等の幅広い参加者が積極的に情報や意見の交換を行なっている。また、外部評価の報告についても十分な話し合いがなされるとともに、『教育研修委員会』においても掘り下げて議論・検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者を中心に霧島市内のグループホーム・小規模多機能ホーム・認知症デイサービスによる『霧島市地域密着型サービス事業者連合会』や『始良伊佐認知症グループホーム協議会』を組織し、行政や地域包括支援センターと協働・連携して認知症や地域密着型サービスの研修、徘徊SOSネットワークづくり、徘徊模擬訓練、介護劇、ホームページ開設など、様々な活動・取り組みを行っている。	『霧島市地域密着型サービス事業者連合会』や『始良伊佐認知症グループホーム協議会』等での取り組みを通じ、日頃から行政との関わりは深く、包括支援センターとの研修会なども積極的に行なっている。また、行政職員や他の介護事業所職員と介護劇に取り組むなど幅広く活動している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	個人の意思を尊重しながら、主体的に活動する事を支援しており、その行動が人命を脅かす危険な行為でない限りは言動を抑制しないようにしている。	身体拘束をしないケアについては、『重要事項説明書』やパンフレットに記載し、周知徹底するとともに、言葉による拘束についても、必要に応じての話し合いや職員会議で確認している。『身体拘束廃止委員会』も年に2回程度開催され、倫理や尊厳も含めた話し合いがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	教育研修委員会を中心に虐待や身体拘束などの人権擁護に関する研修や勉強会を開催し、自分たちの日常の言動を検証しながら振り返り、人権を尊重した介護や生活支援を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	近年、身寄りがいない、家族と疎遠の入居者が増えていると感じる。今後、人権や財産管理などの権利擁護が必要になった場合に備えて学習や知識は必要だと思うが、現在、こうした状況や事例がないため、積極的な理解と学習には至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者は、利用契約の際に重要事項説明書で分かりやすく説明しているほか、改定や変更などに際しては、家族案内の文書を添えて説明している。なお、金銭や運営に係るものについては、同意を得るなどの対応を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	親しい間柄であっても、意見として胸の内を明かさないことが多く、それを職員が察してあげられる“気遣い”や環境(雰囲気づくり)を大切にしながら、不満や苦情にならないように努めている。特に入居者は自分の意に反した共同生活(集団生活)を強いられている方が多く、不平・不満がない人はいないと思う。職員の力で解決できることは努めて対応したい。	入居者の意見や思いの把握は容易ではないが、職員は日頃の入居者との関わりの中から思いを酌み取ると共に、家族からの情報を基に入居者主体の生活の場となるよう努めている。家族からの意見は意見箱や来所時等の対話で確認し、毎月発行の『ゆうゆう便り』で入居者の様子や事業所の取り組み等を広く家族に情報発信している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月一回の職員会議を定例化し、管理者は職員の意見に耳を傾け、職場を盛り立てる雰囲気づくりに配慮しながら、入居者や職場への思い入れが熱意として伝わってくる。職員から出された意見や要望は、管理者の判断あるいは代表者に上申して対応を検討している。	職員からの意見は、毎月の職員会議で聞き取るとともに、必要に応じての個別面談や職員アンケート実施など、日頃からコミュニケーションを取りやすい環境づくりに努めている。職員からの意見は、管理者や代表者が検討し、業務及び提供するサービス内容の見直しや改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人として、事務長が職員の能力や実績、勤務態度などを職員考課で評価しているほか、人員配置や職場環境、雇用条件などに理解を示し、グループホームとしての運営や活動の実績についても一定の評価を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階や経験に応じたものではないが、法人ならびにグループホームの教育研修委員会が中心になって勉強会を開催したり、外部の医療・福祉に関する研修に参加する機会がある。運営者はこうした研修に理解を示し、環境は整っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、ホームが加盟するグループホーム協議会や地域密着型サービス事業者連合会などの役員として各種研修会や講演会を企画運営し、他事業所との連携や親睦・交流を積極的に図っている。また、近隣のグループホームとの行事や研修を通して運営や業務などの様々な問題や課題解決について話し合う機会が増えたと感じる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	緊急の入居相談(申込)が中心で、入居前から関わる機会(時間)が少なく、本人と初期段階で信頼関係を構築する機会が少ない。本人の意思で入居する利用者はほとんどいない中で、環境に慣れるまでは本人・家族・職員の葛藤があり、そんな現状のなかで不安解消や問題解決に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	緊急の入居相談(申込)が中心で、入居前から家族と関わる機会(時間)が少なく、初期の段階で家族との信頼関係を構築するのは極めて難しいと感じる。入居理由が家族の不安解消と介護負担軽減が多く、入居によって家族の不安や負担はある程度解消できるが、本人は逆に不安になるケースが多いので、本人の思いを代弁する形で家族に支援と協力をお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けたとき、入居は最後の手段にしてほしいとお願いしている。住み慣れた家で、その人にあったサービスを提供できる場合もあるので、在宅サービスを中心に案内(紹介)している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側の関係ではなく、共に支え合って生きる同志であると考え、側面からの支援に心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム任せにせず、出来るだけ生活する場面や介護に関わっていただく意味でも、家族と一緒に過す時間(外食・外出・外泊を含めて)をつくってもらうように働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じて馴染みの友人や知人に入居されたことを伝え、訪問していただけるよう働きかけている。ここに来た(入居した)時点ですでに途切れている場合が多く、一部の利用者を除いては継続した支援に至っていない。	馴染みの関係の継続については、霧島市が取り組み始めている『私のアルバム』作成を通して、本人を取り巻く人間関係を細かくアセスメントし情報収集している。入居前から利用している美容院やお墓参りなどは、家族の同行が難しい場合は職員が対応して関係の継続に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、一人ひとりの個性を大切にしながら、利用者同士が関わり合う(支え合う)場面づくりに努めているが、認知症の程度や性格等によって無関心だったり、自分のことで精一杯の入居者も多く、関係性の構築に苦慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全ての利用者ではないが、ホームの催しや機関紙の配布などを通して交流があり、時々足を運んでいただくお付き合いが続いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活させてもらっている状態から、自ら生活していると感じるような支援をしていきたいが、生活意欲や能力が伴わず、指示待ち症候群(?)の入居者が多い。日々の生活で、ふとした言葉・仕草・表情が変化する場面を見逃さない、感じ取る「気付き」を大切にしている。	自分の思いを上手く表せる方が少ない中、職員は日頃の表情や言動、また家族からの情報を基に、思いや意向を酌み取るよう努力している。また、管理者は霧島市が取り組む『私のアルバム』の実行委員として、その人らしい暮らしを送るための取り組みに積極的に関わり活動している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族面談でおおまかな情報入手し、家族や友人などの面会・訪問時に細かな情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	さり気ない言動を観察しながら、職員間で情報交換しながら出来ることと出来ないことの見極めを行うように心がけ、出来ることを生活に生かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや日常会話の中で意見交換をしながら、サービス担当者会議などで職員の意見や見解をまとめ、実践しながら利用者の生活の質の向上に努めている。	介護計画の作成は担当制であり、昼休み等を利用した日常会話や職員会議で話し合わせ介護計画に反映させている。担当者会議は職員会議の前に、多くの職員の参加のもと開催し、広く意見をもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、日常生活の言動を詳細に記録している。また職員全員が情報を共有できるように伝達ノートを備えて目を通してしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人としての特性を活かし、病院や訪問看護が協力医療機関としての受診・往診による健康管理や救急時対応、介護老人保健施設が交流行事の支援を担っており、利用者の安心に繋がっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防などは、安心・安全な生活を営む上で必要不可欠であり、徘徊や行方不明の際の徘徊SOSネットワークによる捜索要請のための情報提供、防火・防災訓練の指導などで連携している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人としての特性を活かし、病院（協力医療機関）との医療連携体制が整っている。病院にない診療科目（歯科・耳鼻科・眼科・皮膚科など）の受診については、基本的に家族の希望先や以前のかかりつけ医との関わりを大切にしているほか、看護師が受診に付き添っている。	隣接した母体病院をかかりつけ医としている入居者が多く、週に1回は必ず往診を受けられることが、毎日を安心して過ごすことにつながっている。他科受診については、初回は職員が同行し、2回目以降はなるべく家族の協力がもらえるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外来や訪問看護ステーションの看護師に相談したり、指導を受けている、病院と訪問看護ステーションが同じ敷地内にあるので、すぐに対応できるメリットもあり、利用者(家族)の安心に繋がっている。入居者が病院と勘違いするくらい、ホームへ複数の医師が往診したり、看護師の細やかな観察記録・バイタルチェックが行われており、入居者が安心して充実した生活を継続できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入退院や受診・搬送先を併設病院の医師や地域連携室が紹介・受け入れの調整を支援するほか、退院後も訪問看護ステーションの看護師を派遣したり、通院リハビリなどで支援するため、早期退院・回復が可能。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	寝たきりや看取り介護、終末期医療の可能性が予測される入居者に対しては、本人・家族の意向を確認し、理解と協力が得られる場合は、医師や看護師も交えた具体的な対応を話し合い、前向きに検討しながら取り組んでいる。	入居時に『重要事項説明書』『入・退居条件』にて同意を得るとともに、状態の変化に応じて家族に再確認している。また、終末期の対応策については、医師や看護師も交えて具体的な話し合いがなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置セットやAED(自動体外式除細動器)、吸引器等を常備している。また、こうした機器を使った訓練や講習を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所主体の防災訓練は行っているが、地域と連携した訓練は行っていない。過去に水害に遭っているのので、今後は地域と連携した訓練や具体的な防災対策についての話し合いが必要と感じる。	緊急設備は早くから法人全体で整備されており、職員や消防署へも自動で通報できるように配備されている。訓練は法人全体での他に、事業所単独でも実施され、地震や水害といった災害に考慮した避難訓練が行なわれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目の離せない入居者の対応は、プライバシーよりリスクを重視している。ただし、入浴や排泄など、誰もが他人に介護させることに抵抗がある介助については羞恥心に配慮しながら対応している。	名前の呼び方や日頃の接し方など、職員と入居者が馴れ合いの関係にならないよう、その都度職員間で話し合いが行なわれている。特に排泄に関しては、日頃からさり気ない声かけと介助を心がけ接するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせた対応を心がけている。人それぞれ生活習慣が違うことを理解し、介護者主導で生活をするのではなく、入居者自身が主体的に活動できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の能力や意欲に応じて、本人のペースに合わせた対応に努めているが、入浴や一部入居者の排泄誘導は職員(事業所)が業務に関連して決めた曜日や時間で対応している日課や支援もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出や外泊の時は髪を梳いたり、服を選んだりして整容の支援を行っているが、普段は着慣れた服装で化粧をすることも少なく、特別な場合を除いて歯磨きや洗顔以外は鏡に向かう場面が少ないので、定期的に理・美容の訪問サービスを活用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることが何よりの楽しみなので、入居者の好き嫌いを把握し、旬の食材を使った味付けや彩りに配慮しているが、職員主体で食事を作るので、出されたものを黙々と無表情で食べている入居者も多く、作る楽しさや食べる喜びの感動はあまり伝わってこない。上げ膳下げ膳が日常的になっているが、入居者もほとんどがそれを望んでいる。	入居者と近隣のスーパーでの買い物、調理の下ごしらえや配膳下膳等の一連の工程をともに行なっている。また、菜園には旬の野菜が育てられ、食卓に上がることがある。日頃からテーブルや椅子の高さにも気を配り、入居者一人ひとりが快適に食事が摂れるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取量や嗜好などを把握しているほか、夏季を中心に個別に水分摂取量をチェックして脱水予防に努めている。特に意思表示ができない入居者や摂取動作・嚥下・咀嚼などに問題を抱える入居者に対しては、細かな声かけや介助、食事形態の工夫をしながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清拭(歯磨き・うがい・義歯の手入れ)の励行を指導(声かけ・見守り・介助)している。また、食事中に咀嚼や嚥下の具合を観察しながら食事形態や口腔状態に応じて口腔衛生を実施したり、訪問歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は自己管理能力や排泄パターンに応じて排泄用品の提供・服薬(緩下剤)・声かけ・誘導・排泄チェックを行っている。なるべく自然排泄を促し、おむつは使わないように心がけている。また、排泄の際の羞恥心にも配慮しながら介助している。	排泄チェックは1日分の記録を当月のチェック表に落とし込み、個々のパターンを分析している。おむつやポータブルトイレをなるべく使わないよう排泄リハビリも実施しており、薬やおむつに頼らない排泄ができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤や整腸剤などの服薬による排便調整を行っているが、なるべく自然排便を促すために個別に牛乳やヨーグルト、繊維類(イモ類)の摂取、水分補給、運動(活動)を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日や回数は臨機応変に対応できるが、時間帯は日中に限られる。24時間温泉を使用できるが、朝や夜は対応できる職員を確保できないため、普段は実施していない。	入浴は基本的には一日おきであるが、入居者の希望等によりいつでも入浴できるように配慮している。入浴を拒む入居者に対しては、声かけや気分転換を図るなどして入居者自身が入浴する意思が持てるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いに居室や談話室のソファなどで昼寝をしたり、くつろげるように、安静・安眠できる照明や生活音の調整、寝冷えや脱水を起こさないように空調管理にも配慮しているほか、睡眠導入剤や睡眠薬を安易に使用しない、自然の眠りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類・効能・用法・用量は主治医の指示のもとで看護師が管理しており、介護職員にも周知したうえで服薬管理は厳重に行っている。また、日常の状態観察や経過記録をもとに医師への報告と家族への情報提供も行っている。なお、医師と看護師(管理者)は、服薬量(処方)を必要最小限にとどめる努力をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力、関心、意欲、性格などに応じて日課(手伝い)や役割、趣味活動などへの支援を行っているが、職員が(支援・援助)してくれるという依存心や安心感もあるので、自主性や協調性、関心や興味、意欲や満足感(達成感)を引き出せないままに終わってしまうことも多い。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や買物、外食を中心に屋外活動を実施しているが、入居者からの自発的な要望や要求は少なく、職員主導で実施することが多い。	日頃から散歩や買い物に出かける支援をしており、年に2回は入居者の負担も考慮して30分以内で行ける所にバスハイクに出かけている。毎年2月に行なわれる県下一周駅伝のゴール近辺での応援には、ボランティアの協力を得て出かけている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭への執着や管理能力は一部の入居者に限られ、ほとんどは職員が購入したものを与えられている状況にある。買物をしてもらい支払いを職員に促されたり、代行することが多く、日常生活でお金を稼いだり、お金に困ることがない環境にあるほか、買いたいものがない無欲の状態、金銭感覚や使う意識が次第に薄れていると感じる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族への用事や近況報告、帰宅欲求への対応などを電話したり、自筆や絵手紙(はがき)、写真を添えたポストカードを作って支援している。遠方にお住まいの家族にたいへん喜ばれている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、湿度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の食堂兼談話室は広い空間を確保しているが、人気がないと開放感より不安を感じるが、職員は花瓶に花を生けたり、絵や写真を飾って季節感を演出して雰囲気づくりに配慮している。また、食堂の席が決まっていることで、入居者は自分の場所として認識し、そこに座ることで安心する人が多い。夜間は場所を認識できるように照明に配慮している。</p>	<p>玄関からリビングにかけてのスペースは明るく開放的で、入居者がゆっくりとくつろげるよう配慮されている。廊下には共同で作られた作品や絵手紙などが飾られ、来訪者の目を楽しませている。浴室は広く、土地柄温泉が楽しめる。入居者の楽しみの一つとなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間(食堂・談話室)としての“集いの場”に対し、個人または少人数でくつろいだり、トラブルの際の避難・保護できる“隠れ家”的な空間やプライバシーの確保は居室以外にはない。どちらかといえば職員が入居者の所在確認や見守りがしやすい環境になっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に家族に馴染みの物や思い出の品が生活環境や精神面に効果的に働くことを理解していただき、職員も日頃からその必要性和意義を十分理解して家族に働きかけている。しかし、現実には持ち込む負担や見栄えを気にして、ホームの備え付けで済ませたり、新しく買い揃える場合が多い。</p>	<p>居室には自宅から持参した馴染みの小物や写真が飾られ、穏やかな気持ちで過ごせるよう工夫されている。また、備え付けのクローゼットは十分な大きさを確保しており、衣類等をわかりやすく片づけるのに役立っている。また、居室のドアには目印になるものが飾られ、入居者が部屋を間違わないよう配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーや手すりの設備と自助具で生活(活動)ができるよう、その人の能力や意欲に合った使用に心がけている。また、椅子やテーブルの高さ、肘かけの有無などに配慮しながら、椅子の使用を奨励し、車椅子の常習化防止に取り組んでいる。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスとしての理念も含めて職員の関わり方や考え方の理念があり、入居者が自分らしく生きることを支援している。個々の人格を尊重し、職員も利用者も家族も同じ生活者として理念を共有した生活支援を実践できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員会をきっかけに自治会へ入会し、回覧板による機関紙の配布や自治会の行事などに参加している。しかし、入居者のほとんどが姫城地区外のためか？地域への関心が薄いと感じる。地域だけでなく近隣に暮らす高齢者の生活にも関るのが理想的であるが、入居者は自分の生活が精一杯で、職員も業務に追われて地域に目を向ける余裕がない現状もある。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	散歩や買物などを通して顔見知りになる地域高齢者もいるので「遊びに来てください」等と声をかける程度で、実現には至らない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議も回数を重ねるごとに充実している。第3者から頂く意見を基に、利用者が安心して生活できるように職員の質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>現場の職員は行政と直接関わることは少ないが、管理者と事務職は連絡を取り合い、様々な活動・情報交換と連携を行っている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>個人の意思を尊重しながら、主体的に活動する事を支援しており、その行動が人命を脅かす危険な行為でない限りは言動を抑制しないようにしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>教育研修委員会を中心に虐待や身体拘束などの人権擁護に関する研修や勉強会を開催し、自分たちの日常の言動を検証しながら振り返り、人権を尊重した介護や生活支援を心がけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>対象者がいないこともあり、消極的。学ぶ機会があったら…と言う受け身である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者本人の意思に関係なく、家族主導の契約が実情。十分な説明を行っているにも関わらず、納得されていない家族も多い。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者は認知症で意思表示や表現が下手であるが、不満や苦情は口にすることが多い。介護する側とされる側という関係ではなく、同じ人間として同等に解決すべき話をしている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月一回の職員会議を定例化し、管理者は職員の意見に耳を傾け、職場を盛り立てる雰囲気づくりに配慮しながら、入居者や職場への思い入れが熱意として伝わってくる。職員から出された意見や要望は、管理者の判断あるいは代表者に上申して対応を検討している。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人として、事務長が職員の能力や実績、勤務態度などを職員考課で評価しているほか、人員配置や職場環境、雇用条件などに理解を示し、グループホームとしての運営や活動の実績についても一定の評価を得ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員を対象にした研修や勉強会に参加する機会が多く、自己研鑽に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、ホームが加盟するグループホーム協議会や地域密着型サービス事業者連合会などの役員として各種研修会や講演会を企画運営し、他事業所との連携や親睦・交流を積極的に図っている。また、近隣のグループホームとの行事や研修を通して運営や業務などの様々な問題や課題解決について話し合う機会が増えたと感じる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から関わることはほとんどない。入居自体が本人の意思に関係なく、家族の介護負担軽減のための利用であり、本人が慣れるまでは不穏になることが多い。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居と同時に家族の不安や負担はやや解消されているのではないかと経過を見ながら、信頼関係の構築を図るように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けたとき、入居は最後の手段にしてほしいとお願いしている。住み慣れた家で、その人にあったサービスを提供できる場合もあるので、在宅サービスを中心に案内(紹介)している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側の関係ではなく、共に支え合って生きる同志であると考え、側面からの支援に心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族だからできることをお願いしている。職員は家族ができないことを側面から支える気持ちで支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じて馴染みの友人や知人に入居されたことを伝え、訪問していただけるよう働きかけている。ここに来た(入居した)時点ですでに途切れている場合が多く、一部の利用者を除いては継続した支援に至っていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、一人ひとりの個性を大切にしながら、利用者同士が関わり合う(支え合う)場面づくりに努めているが、認知症の程度や性格等によって無関心だったり、自分のことで精一杯の入居者も多く、関係性の構築に苦慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了するのはほとんど死亡される例が多く、残された家族は徐々に足が遠のくようである。家族は遠方の方が多いので、仕方がない事かもしれない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活させてもらっている状態から、自ら生活していると感じるような支援をしていきたいが、生活意欲や能力が伴わず、指示待ち症候群(?)の入居者が多い。日々の生活で、ふとした言葉・仕草・表情が変化する場面を見逃さない、感じ取る「気づき」を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族面談でおおまかな情報を入手し、家族や友人などの面会・訪問時に細かな情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の言動を観察すると色々な気づきがある。職員間で情報交換しながら24時間の状況を把握できている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や職員会議での意見交換、研修や経験などで得た事などを参考にしながら、本人のニーズに添った計画を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録はもとより、ケアプラン実施表などから個人情報を共有している。日頃から申し送りを利用したミニカンファレンスが習慣になっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療法人としての特性を活かし、病院や訪問看護が協力医療機関としての受診・往診による健康管理や救急時対応、介護老人保健施設が交流行事の支援を担っており、利用者の安心に繋がっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>警察や消防などは、安心・安全な生活を営む上で必要不可欠であり、徘徊や行方不明の際の徘徊SOSネットワークによる搜索要請のための情報提供、防火・防災訓練の指導などで連携している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>病院併設のグループホームの為、医療管理体制が整っている。併設病院にない診療科については、家族や本人かかりつけ医のほか、希望する専門病院などを選択されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制を導入し、併設の病院に加えて、訪問看護サービスとの連携も整い、医療管理はもとより、健康管理も充実している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者の入退院や受診・搬送先を併設病院の医師や地域連携室が紹介・受け入れの調整を支援するほか、退院後も訪問看護ステーションの看護師を派遣したり、通院リハビリなどで支援するため、早期退院・回復が可能。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>寝たきりや看取り介護、終末期医療の可能性が予測される入居者に対しては、本人・家族の意向を確認し、理解と協力が得られる場合は、医師や看護師も交えた具体的な対応を話し合い、前向きに検討しながら取り組んでいる。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急処置セットやAED(自動体外式除細動器)、吸引器等を常備している。また、こうした機器を使った訓練や講習を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>事業所主体の防災訓練は行っているが、地域と連携した訓練は行っていない。過去に水害に遭っているの で、今後は地域と連携した訓練や具体的な防災対策についての話し合いが必要と感じる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目の離せない入居者の対応は、プライバシーよりリスクを重視している。ただし、入浴や排泄など、誰もが他人に介護させることに抵抗がある介助については羞恥心に配慮しながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせた対応を心がけている。人それぞれ生活習慣が違うことを理解し、介護者主導で生活をするのではなく、入居者自身が主体的に活動できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	〇〇してあげる的なお世話ではなく、できない事を支える自立支援に努めている。ホームのルールに従うのではなく、一人一人が自分のペースで過ごすことを支援できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身だしなみやおしゃれに興味を失っている高齢者が多いので、定期的に理・美容の訪問サービスを活用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることが何よりの楽しみなので、入居者の好き嫌いを把握し、旬の食材を使った味付けや彩りに配慮しているが、職員主体で食事を作るので、出されたものを黙々と無表情で食べている入居者も多く、作る楽しさや食べる喜びの感動はあまり伝わってこない。上げ膳下げ膳が日常的になっているが、入居者もほとんどがそれを望んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取量や嗜好などを把握しているほか、夏季を中心に個別に水分摂取量をチェックして脱水予防に努めている。特に意思表示ができない入居者や摂取動作・嚥下・咀嚼などに問題を抱える入居者に対しては、細かな声かけや介助、食事形態の工夫をしながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清拭(歯磨き・うがい・義歯の手入れ)の励行を指導(声かけ・見守り・介助)している。また、食事中に咀嚼や嚥下の具合を観察しながら食事形態や口腔状態に応じて口腔衛生を実施したり、訪問歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツはどんなに機能的であっても、身体にとっては異物。できる限り、自然のままに生活できるように支援している。(本人が尿意、便意の表出ができるように支援している)尿便意の表出方法は個々で違うことを見極められるように努めている。(例えば、うろうろ始める。不穏になるなど..)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対して飲食物の工夫はもとより、適度な運動が必要であることを職員全員が理解し、心がけている。下剤の必要な高齢者もいるが、薬に頼らず、水分補給や腹部のマッサージ、腹部の温湿布などの刺激も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日や回数は臨機応変に対応できるが、時間帯は日中に限られる。24時間温泉を使用できるが、朝や夜は対応できる職員を確保できないため、普段は実施していない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を継続できない人もいる。改善の必要がある人は生活リズムを整えながら、状況に応じて臨機応変に対応している。居室や談話室のソファなどで昼寝をしたり、くつろげるように、安静・安眠できる照明や生活音の調整、寝冷えや脱水を起こさないように空調管理にも配慮しているほか、睡眠導入剤や睡眠薬を安易に使用しない、自然の眠りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	できるだけ薬は使用しない方が良いが、飲まなければならない薬もある。個々の疾病を把握し、薬の必要性、症状などを理解できるように職員一人ひとりが学ぶ姿勢で取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力、関心、意欲、性格などに応じて日課(手伝い)や役割、趣味活動などへの支援を行っているが、職員が(支援・援助)してくれるという依存心や安心感もあるので、自主性や協調性、関心や興味、意欲や満足感(達成感)を引き出せないままに終わってしまうことも多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や買物、外食を中心に屋外活動を実施しているが、入居者からの自発的な要望や要求は少なく、職員主導で実施することが多い。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う必要性がないこともあるが、興味や関心のない人の方が多い。お小遣いや買物、支払いなどはその人の能力や意欲に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話できる人、手紙を書ける人、その人の能力に応じて対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の食堂兼談話室は広い空間を確保しているが、人気がないと開放感より不安を感じるが、職員は花瓶に花を生けたり、絵や写真を飾って季節を演出して雰囲気づくりに配慮している。また、食堂の席が決まっていることで、入居者は自分の場所として認識し、そこに座ることで安心する人が多い。夜間は場所を認識できるように照明に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間(食堂・談話室)としての“集いの場”に対し、個人または少人数でくつろいだり、トラブルの際の避難・保護できる“隠れ家”的な空間やプライバシーの確保は居室以外にはない。どちらかといえば職員が入居者の所在確認や見守りがしやすい環境になっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真や使い慣れた日用品雑貨などを置き、自分の部屋として心地良く過ごせるように配慮している。しかし、現実には部屋で過ごす時間は少なく、日中はひと気があるホールで過ごす入居者が多い。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーや手すりの設備と自助具で生活(活動)ができるよう、その人の能力や意欲に合った使用に心がけている。また、椅子やテーブルの高さ、肘かけの有無などに配慮しながら、椅子の使用を奨励し、車椅子の常習化防止に取り組んでいる。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない